



G空間プラットフォーム の開発について

**平成27年12月
総務省 情報流通振興課**

「G空間×ICT」プロジェクトの概要

- G空間情報と情報通信技術 (ICT) を融合させ、暮らしに新たな革新をもたらすため、総務省では関係府省や民間企業、地方自治体等と連携し、「G空間×ICT」プロジェクトを平成25年度より推進中。
- プロジェクトとしては、G空間情報の円滑な利活用を可能とする「G空間プラットフォーム」と最先端の防災システムや地域活性化・新産業創出を実現する「G空間シティ」を実施し、先行的な成果が得られているところ。

時々刻々と生成される
大量で多様なG空間情報



基盤地図

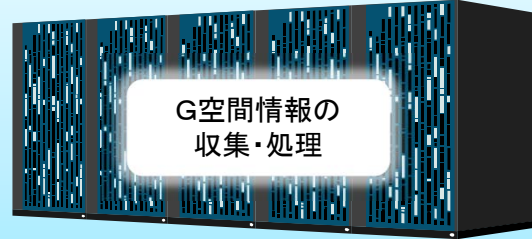


携帯電話
位置情報



プローブ
カー情報

G空間プラットフォーム



G空間情報の
収集・処理

利用者



- ・国
- ・地方公共団体
- ・民間事業者

散在するG空間情報の円滑な利活用を可能とする
「G空間プラットフォーム」

最先端の防災システムや地域活性化・新産業創出を実現する
「G空間シティ」



準天頂衛星

世界最先端の防災システム

地域活性化・新産業創出

(モデル1)
地震発生後の
津波浸水・被害予測



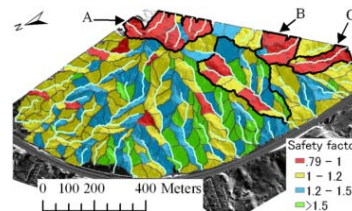
高知市、静岡市等

(モデル2)
地下街等での測位、
避難情報配信



大阪市、名古屋市、東京都

(モデル3)
豪雨等のデータ収集、
災害情報配信



人吉市等

(モデル4)
高精度測位利用の
自動走行トラクター



岩見沢市

(モデル5)
3次元地図利用の
バリアフリーナビ



京都市、大津市

「G空間プラットフォーム」の実施状況

G空間プラットフォームとは

- 民間部門も含めて、散在するG空間情報を集約。
- 集約された**データの加工・編集等の機能**について、**地図等の「静的データ」**については、google等の**商用サービスで実現**されているところであるが、G空間プラットフォームにおいては、
 - ① 携帯電話の位置情報、自動車の位置情報に代表されるG空間情報に特有の**「動的データ（＝時々刻々変化する情報）」**を検索、加工、編集する機能や、
 - ② 防災等個別のユースケースで求められる**リアルタイムのビッグデータ解析機能**等を**新たに具備する必要**があることから、これらの機能を開発するため、国の事業として推進するもの。
- 国・地方公共団体だけでなく、**広く民間にも開放**し、防災・減災に加えて、ビジネス利用も想定。
- 平成26～27年度の**2ヶ年で開発**し、**平成28年度予定のG空間情報センターの構築に伴い本格運用**予定。（「世界最先端IT国家創造宣言工程表」）

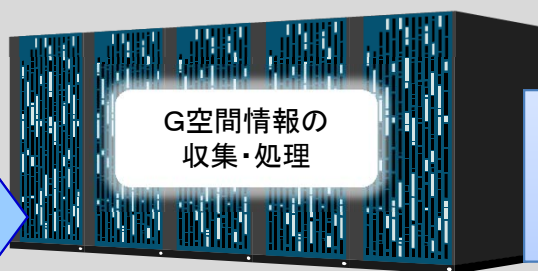
時々刻々と生成される
大量で多様なG空間情報

- ① 基盤地図等
- ② シミュレーション
- ③ センサデータ



G空間プラットフォーム

希望する形式で提供



データクレンジング（データ形式の
変換、重複・表記揺れの修正等）

マッシュアップ・データ加工

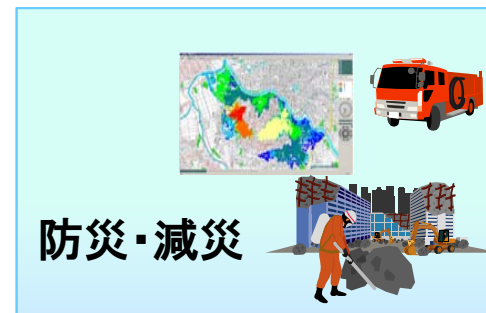
リアルタイムビッグデータ解析

利用者



- ・国
- ・地方公共団体
- ・民間事業者

ユースケース



事業の実施体制



G空間プラットフォームの開発・検証に係る請負



動的データ処理機能

静的データ処理機能

HITACHI
Inspire the Next

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

組織	責任者
国立研究開発法人 情報通信研究機構	富田 二三彦 (ソーシャルICT推進研究センター)
国立大学法人 東京大学	関本 義秀 (生産技術研究所)
株式会社 日立製作所	松田 純一 (公共システム事業部)